

東区の姫街道

姫街道をゆく

浜松市東区は、平成19年(2007年)4月浜松市の政令指定都市移行に伴い誕生しました。東区は浜松市の東の玄関口にあたり、古来より東海道、秋葉街道、そして姫街道などの主要な街道が通り、交通の要所となっていました。ここ姫街道は、浜名湖の北岸を迂回する東海道の脇往還です。「姫街道」という呼び名は俗称であり、江戸時代までは公的には「本坂通」と呼ばれていました。東区内を横断する「姫街道」は、安間の起点から最古の道標へと至る約6kmの区間です。宿場としては、市野宿に本陣(齊藤本陣)が置かれていますが、現存しません。宿場としての機能は失われましたが、街道にはわずかに当時の面影が残っています。

[街道文化の継承と創造]

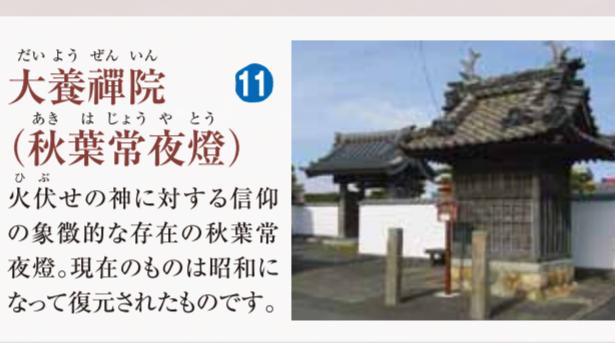
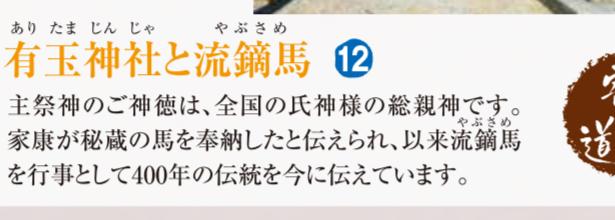
姫街道は、古代は官道として、戦国時代は軍事用として、近世は東海道の脇往還として人々の往来が活発でした。東区では、姫街道の歴史を探るとともに、現在に残る歴史的文化財を後世に継承し、新しい街道文化の創造を目指しています。

姫街道は、浜名湖の北岸を迂回する東海道の脇往還でした。江戸時代には東海道と安間新田村で分岐して市野宿を経て三方原追分(追分三辻)へ至り氣質宿へ向かう道筋がありました。これ以外に見付宿から池田の渡しを経て市野宿へ通じる道筋(池田近道)もあり、この道筋は中世以前の主要ルートであったと思われます。

●見付宿から御油宿までの距離は十五里十四町(約60km)



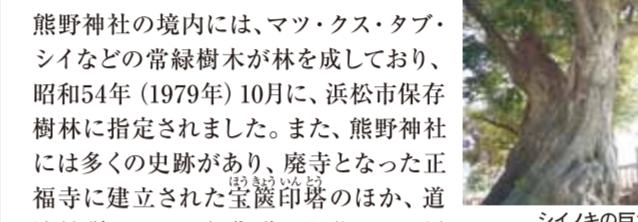
*数字は江戸からの里程



小池一里塚 10
江戸から65番目に位置する一里塚ですが、現存はしません。今でもこの辺りは「一里山」と呼ばれています。



熊野神社 8
主祭神のご神体は、全国の氏神様の総親神です。家康が秘蔵の馬を奉納したと伝えられ、以来流鏑馬を行事として400年の伝統を今に伝えています。



宝筐印塔 9
延享3年(1746年)に造立されました。高さ3.5メートル以上あり、遠州地方最大の宝筐印塔です。この中には「宝筐印陀羅尼經」が納められてあります。笠下の最も重要な箇所である塔身の作り方には関西形式と関東形式に区別されていますが、ここの宝筐印塔は関東形式といわれます。



浜松市東区の位置

静岡県浜松市東区役所 区振興課

〒435-8686

浜松市東区流通元町20番3号 東区役所3階

TEL053-424-0115

e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

平成25年3月発行



姫街道には当時のなまらりある道標などが残っています。
この貴重な史跡を見つけるながら歩いてみてはいかがでしょうか。



至北区細江町(気賀)へ

261



最古の道標 13
浜松市域の姫街道沿いに残る最も古い道標。「右きがかなし左庄内道」とあり、裏面に天保3年(1832年)と刻まれています。かつてはここが、姫街道と庄内道の分岐点でした。



最古の道標 ← 熊野神社

P 駐車場
S 寺
W トイレ
X 史跡
O 交番
B 碑
I 郵便局
E 総合案内板
R 資源解説板
H お休み処
D 道標
H 半僧坊里程碑石
P 公園
--- 姫街道

お休み処 で
ちょっとひと休み
休 マーク
熊野神社などにはトイレや
ベンチがあるから、休憩するには
ちょうどいいよ。
※ゴミは持ち帰ってね!

裏面より
半僧坊里程碑石